

12月
December



コットンフラワー

花言葉

優秀 / 私を包んで

真冬の癒しのインテリア
もこもこあたたかな綿の実を飾って

プロが伝授! 花を長く楽しむアドバイス

- ドライフラワーで出回るので、水にいけずにそのまま飾りましょう。
- 茎から切りはなして、綿の部分だけをリースなどのオーナメントとして使用できます。中の綿を指でそっと引っ張るとボリュームがでます。
- 1本の茎についている綿の数が異なるので、用途や好みに合わせて選びましょう。

お家で簡単! 3ステップアレンジ

- ① 安定感のある器を選び、水を入れずにいけます。まず、ブルーバードなどのコニファー類を器の口元にギュッといけます。
- ② コニファーの隙間に、コットンフラワーの枝を3本ほど長いまま立てるようにあしらいます。
- ③ 最後に短めのコットンフラワーの枝を手前にプラスして、綿のもこもこ感を強調します。コットンフラワーの枝がグラグラしないよう、コニファーを足して固定しましょう。コニファーもそのままドライになっていきますので、冬のあいだ中楽しめます。

ふわふわの真白に包まれて

衣服でなじみ深いコットンは、インド、中国、キルギスなど中東で栽培され、私たちの暮らしの中で欠かせないもの。夏にフヨウに似た花を咲かせた後、秋に綿の実ができるアオイ科の植物です。鑑賞用のコットンはイスラエル産が主力で、白のほかにブラウンがあります。ポンポンまるい綿毛が雪玉を連想させる、冬の装飾の定番アイテム。



使っている花 ■
コットンフラワー、コニファー
(ブルーバード)

使っている花 ■ コニファー（ブルーアイス、ブルーバード）、松カサ、シルバープルニア、ユーカリ、枝ほか

12月
December



コニファー

花言葉

永遠／不変

北欧の森の中を歩いているような香り
クリスマスの準備を楽しんで

プロが伝授！花を長く楽しむアドバイス

- 水に浸かる部分の葉は取り除き、切り戻しをしていきましょう。
- とても日持ちしますが、水が汚れやすいので3日に一回程度水替えをしましょう。
- 乾燥に弱いので、毎日霧吹きで水をかけてあげるとグリーンの状態を長く楽しめます。

お家で簡単！3ステップアレンジ

- ①画像手前は、コニファー・ブルーアイスで作るツリーのオブジェ。器の中に発泡スチロールかフローラルフォームを仕込み、中央に枝をしっかりと立てます。
- ②ブルーアイスの小枝を細かく切り分け、ツリーのシルエットになるようワイヤーで小枝を巻きつけていきます。
- ③ツリーの上部に小さ目の松カサをワイヤーで留めます。器の表面にも松カサなどの実をこんもりとのせましょう。画像奥は、アドベントキャンドルアレンジメントで、4本のアドベントキャンドルのまわりに、コニファー類やユーカリ、シルバープルニアなどシルバー系が美しい葉や実を集めてアレンジしています。

冬の森の静かなクリスマス

クリスマスのデコレーションに大活躍のコニファー類。雪が積もったようなシルバーの葉色が美しい「ブルーアイス」やシックなアッシュ系の「ブルーバード」はその代表格です。冬の森のような静謐な雰囲気、森林浴をしているような心地よい香りに包まれます。クリスマスを迎えるまでの準備の時間、愛おしいひとときです。



使っている花 ■ シンビジウム
(ノーザングローリー)、マム
(フェゴダーク)、大王松

12月
December



シンビジウム

花言葉 飾らない心／素朴

ランが醸す高貴な雰囲気
シンプルにあしらってモダンな印象に

プロが伝授！花を長く楽しむアドバイス

- 花に艶のある、鮮度がよいものを選びましょう。
- 切り戻しをして、切り花栄養剤入りの水にいけましょう。
- 日持ちはよいですが乾燥に弱いので、霧吹きで保湿してあげるとベターです。

お家で簡単！3ステップアレンジ

- ① ガラスの器に半分ほど水を入れ、切り花栄養剤を適量加えます。
- ② 大王松を器の縁を利用して横に流すようにいけます。シンビジウムは茎の下の方の花はあらかじめカットし、茎の上部の花をメインにいけます。花の頭が重たいので転げないように気をつけましょう。
- ③ マムを短めにカットして、器の口元を引き締めるようにプラスします。カットしたシンビジウムの花は一輪ずつグラスなどに浮かべ、丸く結った大王松の葉と共にあしらうと小さくも凛としたテーブルアレンジに。

和洋折衷の華やぎで迎える初春

鉢花が贈答用で人気ですが、冬から春先にかけて切り花の生産も盛んです。寒さに強く日持ち性も抜群、蠟のような質感に宿る瑞々しさも魅力です。1本で素晴らしい存在感ですが、花一輪一輪アレンジしてもテーブルが華やかに。最近は、春蘭のような清楚で高貴な小輪タイプや芳香性に富む品種などバラエティも広がっています。



使っている花 ■ マツ(大王松)、
シースターファン、ナンキンハゼ、
稲穂、松カサ、グロリオサ(パー
ルホワイト)

12月
December



マツ

花言葉

不老長寿／慈悲／勇敢

凛とした緑、清浄なパワー
澄みきった心で迎えたい新たな年

プロが伝授! 花を長く楽しむアドバイス

- 葉色が濃く、葉先を触って痛いと感じるものを選びましょう。
- 葉に霧吹きをかけて、枝を切り戻してからいけます。
- 乾燥に弱いので、暖房(エアコン)の近くは避けて飾るとよいでしょう。
- 手に松ヤニが付いてしまったときは、メイク落としのクレンジングオイルやアルコール消毒液を使うと取れやすくなります。

お家で簡単! 3ステップアレンジ

- ① 大王松を使ったお正月飾りです。あらかじめ、ナンキンハゼや南天などの実、稲穂などは短めにカットしておきます。松カサの下部にワイヤーをかけて足を作っておきましょう。
- ② 大王松の枝部分を手前に置き、枝の上に重ねるように、シースターファンなどのシダ類、稲穂、ナンキンハゼなどのパーツを麻ヒモなどでしっかりとくくります。くくり終わったヒモで、壁などに下げるための輪っかも作っておきます。
- ③ 麻ヒモ部分を隠すように、小さくカットした和紙などを巻きます。紅白の水引をあわせるといっそうお正月らしい雰囲気!

神の依り代、お正月飾り

「四時常に緑」なる松は、永遠の若さのシンボルとされ、不老長寿を願って平安の昔から正月に飾られてきました。種類は様々出回りますが、松の中で世界一長い葉を持つ大王松(ダイオウショウ)も人気。松は12月13日以降に飾る慣わし。12月29日は二重苦、31日は一日飾りになり神様に失礼とされますので、28日までに飾りましょう。

